



各地で行われたイベント&話題をお届けします

ひとり暮らしのお年寄りにプレゼント 西城紫水高校ボランティア体験



12月9日、西城紫水高等学校の生徒が、ひとり暮らしのお年寄りを訪問し、手作りのプレゼントを手渡しました。

この活動は、日ごろお世話になっていることへの感謝の気持ちと、地域とのつながりを感じ、地域を大切にしようと生徒全員参加のボランティア体験実習として実施しているもので、今年で7回目になります。

今年のプレゼントは、家庭福祉と家庭研究の科目を選択している生徒が手作りの木製台付きの写真立て。2・3人ずつのグループに分かれた生徒が、放課後を利用して町内のひとり暮らしのお年寄り226人を一軒ずつ訪ねて「いつまでもお元気で」と声をかけながらプレゼントを手渡しました。

プレゼントされたお年寄りは「毎年訪ねてくれてありがとう。今までにももらったプレゼントも大切にに使わせてもらっています」と喜んでいました。生徒は「喜んでもらえてうれしい。いつまでも元気で長生きしてほしい」と話していました。

「いつまでもお元気で」と、手作りの写真立てをプレゼント

ミュージカルの楽しさを伝える 庄原保育所でミニ公演

庄原こどもミュージカルを製作・指導するスタッフが11月25日、庄原保育所でミュージカルひろば「青い鳥」のミニ公演を行いました。

この公演は、本格的に表現を学んだリーダーたちと観客と一緒に声を出し、本来の自分を発揮しながら、共にステージを作っていくミュージカル。この楽しさを体験してほしいと、庄原自治振興区と保護者会の助成を受けて、大阪市などから10人のスタッフを招待しました。

公演では、4つの劇が披露され、子どもたちや保育士も歌ったり踊ったり一緒に楽しんでミュージカルに参加しました。三宅千幸所長は「まるで子どもたちが魔法にかかったみたいに、楽しそうにしていたのが印象的」と話し、準備を進めてきた保護者の長谷川真弓さんも「これをきっかけに、他の保育所や学校の子どもたちにもミュージカルの良さを発信していきたい」と喜んでいました。



園児も一緒になって「怪獣のパラード」を踊る

夢が実現! 絵本で環境を守ろう 峰田小で絵本完成発表会

峰田小学校が11月30日、環境保護と友情を訴える絵本「まけるな! キジバト」の完成を祝い、学習発表会で大型絵本の朗読を披露しました。

これは、5年生の五刀円さんの「地球温暖化の真実を知ってもらおう絵本を作りたい」という夢が、青少年育成県民会議の夢配達人プロジェクト推進事業に採用されたことをきっかけに、環境学習や絵本作家による授業など、学校全体で絵本作りに取り組みました。

地球温暖化の影響によって苦勞するキジバトの母子の姿を描いたこの絵本は、絵本作家の朝川照雄さんや、よこみちけいこさんの協力を経て完成。本は1200部印刷され、市内の保育所、小学校、中学校のほか、県内の全小学校にも無料配布されます。ストーリーを考えた五刀さんは「夢が叶ってうれしい。この本を読んで、環境を守る取り組みが広がってほしい」と喜びました。

発表会では、手作りした縦1冊、横2冊の大型絵本を使って、全校児童38人が元気よく朗読しました。



峰田小の児童と大型絵本



民俗芸能をまとめて披露 庄原市民俗芸能大会



市指定「湯木の盆踊り」(湯木芸能保存会)

市内の民俗芸能が一堂に会し、国・県および市指定の無形民俗文化財を公開する「第2回庄原市民俗芸能大会」が11月22日、庄原市民会館で開催され、市内外から約700人が来場しました。

この大会は、市内の各地域で守り継がれてきた民俗芸能を保存、伝承するとともに、民俗芸能への知識と関心を深めるため、庄原市民俗芸能大会実行委員会が昨年より開催しています。

この日は、国指定の「塩原の大山供養田植」や「比婆荒神神楽」など、8件の無形民俗文化財が披露。観客は、普段めったに見られない演目をたっぷり堪能しました。

熱く華麗な舞を披露 帝釈峡近郷神楽競演大会

東城地域の冬の風物詩となっている「第26回帝釈峡近郷神楽競演大会」が12月7日、東城町老人福祉センターで開催され、県内をはじめ兵庫県や鳥取県などから神楽ファン約400人が来場しました。

今年の大会は、国重要無形民俗文化財に指定されている比婆荒神神楽(東城町・西城町)や備中成羽社(岡山県高梁市)のほか、数々の競演大会で優勝した実績がある廣森神楽団(安芸高田市)や山王神楽団(北広島町)が出演しました。



山王神楽団の迫力ある舞

地元の比婆荒神神楽は、本山三宝荒神に奉納する祖霊信仰の神楽で、今回は「七座神事」「八重垣の能」を披露。演舞の中では、八岐の大蛇が舞台から降りて観客と駆け引きするなど、厳粛な舞の中にも驚きや笑い声、歓声や拍手が沸き上がりました。

この他、色とりどりの華やかな衣装を身に付けた団員たちが熱く華麗な舞を披露し、観客は神楽の魅力を堪能する一日を過ごしました。

青色回転灯付車両を増加 防犯パトロール車出発式



防犯パトロールへ出発

庄原警察署管内防犯組合連合会は11月25日、青色回転灯「防犯パトロール車」出発式を庄原警察署で開催しました。

これは、これまで市役所に1台だった青色回転灯付車両を増やすことにより、犯罪の未然防止や市民の防犯意識の高揚を図ろうとするものです。

出発式では、滝口季彦市長から青色回転灯が、斉藤正晴警察署長から青色回転灯装備車標章が各支所の職員と各地区の防犯組合員に手渡されました。その後、青色回転灯を市の公用車8台に装着し、佐々木信行連合会長の合図で市内の巡回に出発しました。

防犯パトロール車は各支所へも配備し、安全・安心な地域社会の実現を目指します。

● Uターンで夢をカタチに 口和町に機織り工房オープン

口和町に機織り体験交流施設「里呼織り工房」が完成し、11月22日から24日まで、工房開きが行われました。

この施設は、昨年の夏に広島市からUターンした脇坂より子さんが、「地元で機織りを行い、皆さんが集える場所ができれば」という思いから、市の起業支援補助金を活用し、自宅内に織物工房とギャラリーを整備したものです。

工房開きの期間中は、地元住民をはじめ広島市の友人など100人以上が来場。地元の野菜を使った豚汁などが振舞われるなど、オープンを祝いました。

脇坂さんの機織りは、自らの名前を文字で「里呼織り」と名づけています。本藍や草木染めの糸から織るものと古くなった着物を裂いて織る「裂き織」と2種類あります。特に、古くなった着物も脇坂さんの手にかかれば、コースターやバッグ、衣服などが出来上がります。ギャラリーに飾られているこれらの作品は、和の色彩の美しさが改めて感じ取れます。

「里呼織り工房」では、事前予約で機織り体験もでき、体験費1,000円と材料費でコースターなどが30分ほどで作られます。詳しくは「里呼織り工房」☎0824-89-2501まで。毎週木・金・土曜日の10時～16時営業です。



ギャラリーを案内する脇坂さん

● クリスマス会で鉢カバー作り 東城青少年育成事業



▲完成した鉢カバーを大切に持つ子どもたち
◀知事表彰を受賞した宮田さん

庄原市子ども会連合会東城支部が12月13日、東城ふれあいセンターで「クリスマス会」を開き、参加した子どもたち23人は、パンジーの鉢カバーを作りました。子どもたちは細かい作業に苦勞しながらも、家族へのすてきなおみやげを喜んでいました。

東城支部では、青少年健全育成を目的に、東城の古い町並みと歴史を学ぶ「ふるさと探訪」や自然体験を目的とした「キャンプファイヤー」など、公民館事業の中で子ども会活動を支援しています。

こうした取り組みが認められ、東城支部専門委員の宮田康弘さんが、平成20年度青少年育成県民運動推進大会で模範青少年知事表彰を受賞しました。宮田さんは、「これからも地域の皆さんの支援をいただきながら、子ども会活動の推進を図っていききたい」と話していました。

● 生演奏・歌声響き渡る 第20回東城町音楽交流会



東城中学校吹奏楽部の演奏

今年で20回目を迎える東城町音楽交流会が11月18日、東城町老人福祉センターで行われました。

東城町内の保育所・小学校・中学校・高等学校が一堂に会するこの交流会に、10団体、334人が参加。各団体は歌や踊りなど、日ごろの練習の成果を発表しました。

町内5カ所の保育所年長児は手話を交えた「なかまただから」を合唱し、内堀小学校は型枠パイプと米袋で作った手作りの紙太鼓を使って国重要無形民俗文化財「塩原の大山供養田植」の歌を披露しました。

東城中学校吹奏楽部の軽快な曲には客席から歓声が上がったり、児童の歌に合わせて手拍子が起こったり、音楽を通じて会場が一つになる交流会となりました。

● 中世の土器や鉄滓を掘り出す 高野小が遺跡発掘体験

高野小学校の6年生25人は11月13日、高野町南地区の華表沖遺跡で発掘調査を行いました。

子どもたちに発掘調査の大切さと面白さを実感してもらおうと、市教育委員会が協力。市職員の指導で、子どもたちは測量・実測・発掘体験を行い、中世の土器や鉄滓を掘り出しました。中には、手のひら位の大きさの鉄滓やほぼ完形の土器もありました。

これまで、高野町では発掘調査が少なく、子どもたちも初体験。「まだ発掘したい」「また発掘にきたい」など、楽しそうに感想を話していました。

市教育委員会は、ほ場整備事業に伴い、華表沖遺跡の発掘調査を実施しました。



古代のロマンに触れる子どもたち

● 比和特産「そば」で健康づくり 旬を楽しむ食育健康講座



11月25日から12月16日、あけぼの荘で「食育健康講座」が4回にわたり開かれました。

この講座は、「比和そばの会」の会員が講師となり、そば打ちを通じて健康づくりや地産地消に理解を深めてもらおうと企画。参加者は、10割そばの実演と解説を聞いた後、比和町産の新そば粉を使ってそば打ちに挑戦しました。最初は戸惑いながらも、なごやかな雰囲気の中、回数を重ねるごとに上達していききました。試食会では、「自分で打ったそばはおいしい。家でも練習してもっと上手になりたい」と話していました。

そば粉をこねる参加者

● 小学生がふるさとカレンダー 亀谷自治振興区「土曜塾」

総領町の亀谷自治振興区が11月29日、「土曜塾」でカレンダー作りを行いました。

参加した小学生5人は、「ふるさと亀谷を再発見したい」という思いを込めて、亀谷の四季折々の行事の写真を取り込んだカレンダーを作製。このカレンダーが子どもたちと地域住民の心の架け橋になればと、亀谷自治振興区の全世帯へ配布しました。

亀谷自治振興区では、小中学生と地域の方との世代間交流を目的に「土曜塾」を開催し、陶芸教室、料理教室、地域探検などを行っています。子どもたちは、「楽しかった。またやりたい」「今度は何か」と話し、「土曜塾」を通して地域に関心を寄せています。



カレンダーの完成を喜ぶ子どもたち



● 地元食材で健康づくり 高野地域男女共同参画講座

男女共同参画講座が11月25日、高野福祉保健センターで開かれ、24人の参加者が地元産の米粉と、旬のリンゴを使用した「リンゴの蒸しもちパン」を作りました。

調理は市の田端早苗栄養士が指導。「もちもちした食感でおいしい」「手軽な料理で男性のわたしでもできる」と参加者に好評でした。

調理後、田端栄養士が最近話題となっている食品偽装問題を取り上げ、JAS法確認テストを行いながら、食品表示について注意を呼びかけました。

この講座は、高野町の女性の地位向上と社会参画をすすめる会を中心とした実行委員会が主催。“力を出し合い行動する勇気を”をテーマに2回開催し、講演会やワークショップも行いました。



リンゴの蒸しもちパンを調理

● 30回の節目を華やかに開催 くちわ文化祭・芸能祭



美しきフラダンス

くちわ文化祭・芸能祭が11月16日、口和文化ホールヒューマンライツで開催されました。

今年で30回の節目を迎え、冒頭に庄原市文化協会口和支部長の原茂隆さんが「30年の重みとともにこれからも口和文化の発展に貢献したい」とあいさつ。日本舞踊、コーラス、和太鼓やロックの演奏、フラダンスなど19組がステージ出演し、日ごろの練習の成果を発表しました。来場者は「出演者の芸能を楽しんでいる姿がとても印象的だった」「年々芸能のジャンルが広がり楽しい」などと感想を話していました。

会場の外では、うどんやコーヒーのバザーも行われました。

● 絵本の魅力を発信 絵本原画展「田島征三の世界」

絵本作家・田島征三さんのトークショーが11月24日、東城支所ホールで開かれ、約50人が参加しました。

田島さんは「絵本と子どもと自然」と題して講演し、子どもたちの体験が絵本作りの基になっていることや、環境保護に対する取り組みを紹介。「絵本は言葉の響きを楽しみ、絵から作者の思いを読むことが大切。絵の持つ哲学性・アート性を読んでほしい」などと話しました。

会場では、田島さんの代表作「ちからたろう」や「とべバツタ」などの読み聞かせも行われました。

絵本原画展『田島征三の世界』は11月17日から25日まで、東城支所ホールで開催され、「オオカミのひみつ」「おばけむら」の原画約40点が展示されました。



講演する田島さん